

施工柱足元詳細写真



砕石敷き込みコンクリート板敷き



柱足元パッキンで高さ調整
埋め込み部分は900防水加工



柱と土台はボルトφ12で繋ぐ



土台よりL型アスカーボルトを埋め込む



土台外側に断熱材取り付け



断熱材で地熱を遮断する



フレーム組立中央は金物で繋ぐ



屋根下地は条件（積雪量）により変わる

企業「次の一手」

住宅建設を手掛ける北誠商事（飯山市）は合板を組み合わせて骨組みを作る新工法を開発し、耐久性や保温性の高い農業用ハウスや倉庫の販売を始めた。暖房なしでも室内温度がセ氏20度を超え、寒さの厳しい冬でも農産物を栽培できる。長野県や新潟県などの豪雪地帯を中心に販売し、農家の需要を開拓する。

北誠商事

冬季の積雪や冷え込みに耐えるハウスで農業分野の受注を開拓する（飯山市）



農業用ハウス雪に強く

などと共同で開発。2016年11月に受注を始めた。ルハウスが潰れたり、金属アーチ状の屋根は雪が滑り、製の骨組みがさびたりする落ちる設計で、ハウスの大きさによるが6〜10トンの木材の骨組みに透明のポリカーボネート樹脂を張り合わせる設計にしている。実証実験では1桁台の氷点下になることも多いが、耐雪構造ハウス内は暖房を使わずに気温が20度を超える。信州大学の大井美知男特任教授と連携し、16年12月未からは年間を通じたハウス内の地温と室温の変化、農産物の生育状況を計測する実証実験も始めた。葉物野菜のほか、イチゴやトマ

トを取り込む。同社の17年4月期の売上高は2億5千万円程度の見込みで、うち9割は住宅販売が占める。住宅メーカーが消費者の需要を取り込むため断熱性など機能を高めた住宅商品を相次ぎ投入するなど、競争は激しさを増す。高柳社長は「建設会社だからできる特殊な工法の商品で差別化を図る」狙いを掲げ、農業用ハウスの柱の間に育てる考えだ。合板を組み合わせる工法を生かし、一般住宅分野の売り上げ拡大もめざす。既存の住宅の屋根の上に合板を使ったアーチ型の屋根を載せ、雪を積もりにくくする落雪式屋根の受注を始めた。改修費用は1戸あたり100万円〜300万円程度。長野や新潟、東北地方などの豪雪地帯を中心に全国に販路を広げる。

長野支店 0266-2332-2211
松本支店 02663-3361-3007